

●平成十一年度特別企画展

種子島 縄文時代の夜明け

—海をこえての交流—

種子島開発総合センター

ごあいさつ

近年、全国各地で埋蔵文化財の発掘が相次ぎ、新しい事実が日々刻々と解明され、歴史が新しく塗りかえられているところであります。

私たちの種子島においても、10数年前までは、種子島の人類の始まりは、約7000年前の縄文時代早期とされていましたが、ここ数年の発掘で31000年前の旧石器時代までさかのぼることになりました。

また、その後の調査により、古代人は我々が想像する以上に昔から、黒潮海流を通しての交易を行い、文化交流が頻繁であったことが明らかになってきました。

さらに、その文化の情報発信地は種子島を含めた南九州あたりではなかったかともいわれています。

このようなことを踏まえ、教育委員会では「種子島縄文時代の夜明け」と題する特別展を開催することにいたしました。

今回は種子島で初めての特別展であり、古代人、特に縄文時代の海上の道を通じた交流についてスポットをあててみました。そのため、種子島開発総合センター収蔵資料のみならず、県内各地はもとより遠くは新潟県からの資料も収集いたしました。

縄文人は現代人が考える以上に、すばらしい知恵と勇気をもって他地域との交流に積極的であったことがわかつて思います。

この特別展が、古代の種子島、南九州の交流を研究する上で、貴重な公開の場として位置づけられ、市民の皆様ががふるさと種子島における古代の歴史に、誇りと興味を持っていただく契機にしていいただければ幸いです。

最後に、本特別展開催にあたり、貴重な資料を提供していただき、助言をいただきました鹿児島県立埋蔵文化財センターをはじめ、県内外の各教育委員会及び関係者の方々に衷心より厚くお礼申し上げます。

平成11年11月

西之表市教育委員会教育長 有島 正之

目次

ごあいさつ

目次

第一章 三万年前の種子島（旧石器時代）

最古の調理場跡
最古の生活跡
横峯・立切のころの種子島
細石器文化の南限地

1

第二章 縄文時代の夜明け

旧石器時代から縄文時代へ
種子島の縄文時代の夜明け
遊動から定住へ
奥ノ仁田遺跡
丸ノミ形石斧の登場

5

第三章 種子島縄文人の交流

本土と同じ文化圏
貝殻文土器
最古の定住集落跡
壺形土器の出現
押型文土器の伝播
鬼界カルデラの大噴火

14

轟・曾畑式土器の文化
琉球列島との交流
市来式土器をたずさえた人々

第四章

交流を示す品々

海を渡った黒曜石
種子島に渡ったヒスイ
珠状耳飾り

21

第五章

交流を支えた丸木舟

縄文時代の舟
発掘された縄文の丸木舟
丸木舟の果たした役割

25

おわりに

新たな発見
海をこえて

27

参考文献
図版目録
展示品目録
展示協力者

29
30
32
35



1 礫群 横峯遺跡（種子島 南種子町）



2 礫群断面 横峯遺跡（種子島 南種子町）

最古の調理場跡

種子島で最初に、旧石器時代の遺跡として確認されたのは、横峯遺跡（南種子町）である。横峯からは、種Ⅳ火山灰層（約三万年九百年前）の下より、礫群が検出された。この礫群は日本最古の調理場跡として、話題になった。

礫群の発見により、種子島には約三万年前から人が住んでいたことが明らかとなったのである。

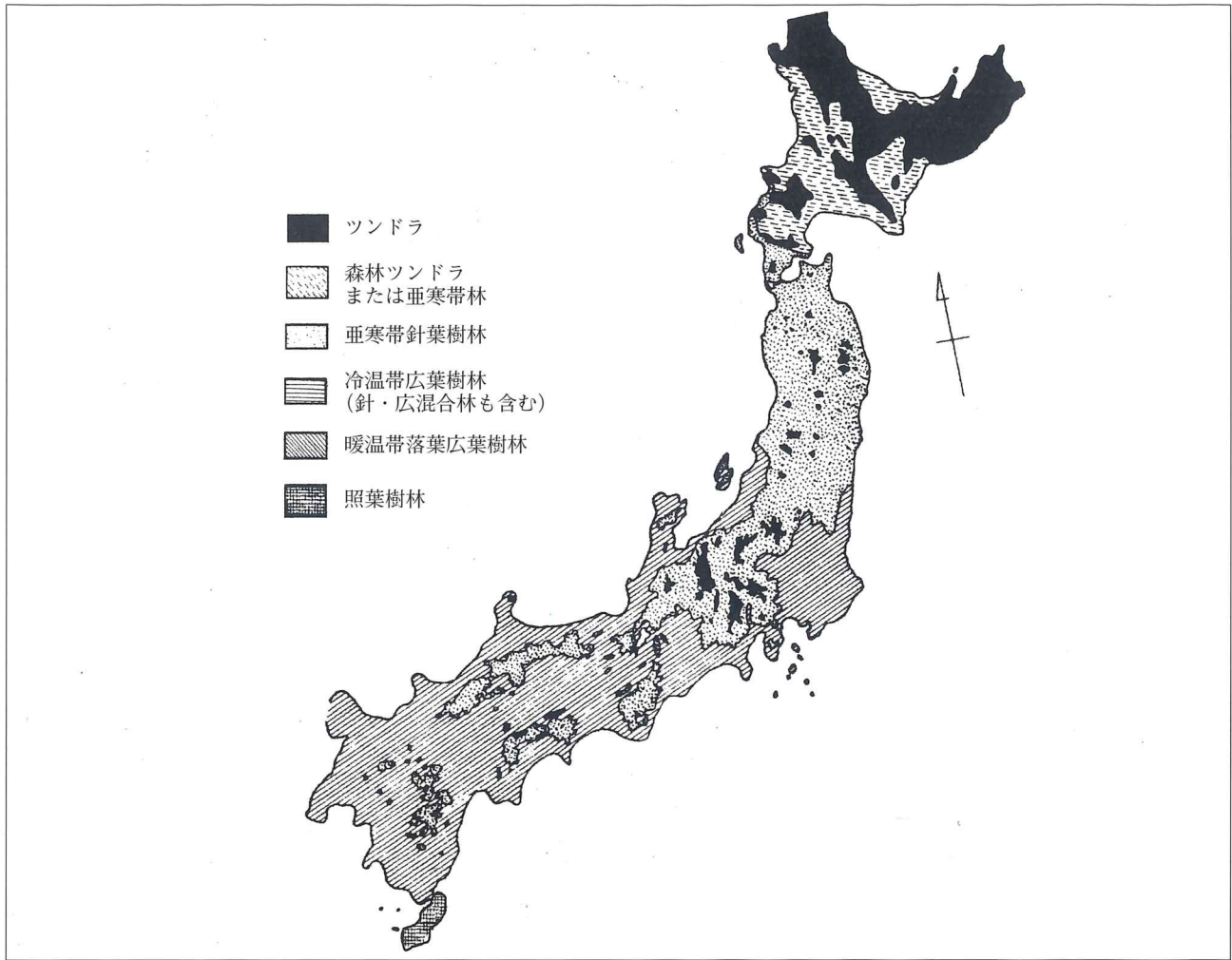
最古の生活跡

立切遺跡（中種子町）では、種Ⅳ火山灰層（約三万年九百年前）の下より、すり石・たたき石・台石・石斧などの石器類、礫群、焼土、土坑がセツトで発見された。調理用と考えられる加工具や調理施設などがそろった遺跡としては、国内最古のものであった

特に、すり石・たたき石などの植物性食料の調理用具の出土は最古のものであり、縄文時代の文化と考えられてきた採集生活が種子島では、すでに始まっていたことを示すこととなった。

立切では、生活の基盤となる設備が一か所で発見されたため、狩り場近くで一定期間キャンプ生活をしながら移動する生活」というこれまでのとらえ方に見直しを迫るものとなった。

立切遺跡は三万年前の人びとの暮らしぶりを探る上で画期的な発見であった。



3 約2万年前の日本

横峯・立切のここの種子島

旧石器時代は氷河時代で、今よりずっと寒い氷期と温暖な間氷期とが交互にくりかえしおとずれていた。氷期には海の水が凍るため、海水面が、低くなり日本列島は大陸と陸続きになり、種子島も大隅半島とつながっていたと考えられており、ヤギウやオオツノジカといった大型動物のいる湿原や平原がいたるところに広がっていたと思われる。

横峯・立切遺跡の人々のころは、旧石器時代の中でも、間氷期といわれる比較的温暖な時期で、種子島は本土と切り離されており、冷温帯性の落葉広葉樹林分布地域に含まれ、当時の人々は木の実などの植物質食料に高く依存していたことが考えられる。

約二万年ほど前におとずれた最後の氷期が終わると気温はだんだん上昇していくが、横峯・立切遺跡が形成された背景には、種子島の自然環境や位置が深く関係していると思われる。

細石器文化の南限地

旧石器時代の終末期（約一万三千年前）になると狩猟道具としての細石刃を人々は製作し利用していたが、立切遺跡からも細石刃とそれを作る細石核が出土している。

旧石器時代終末期のこの文化の遺跡は、これまで、鹿屋市や枕崎市など鹿児島県本土の南端まで



4 石器出土状況 立切遺跡 (種子島 中種子町)



5 焼土跡 立切遺跡 (種子島 中種子町)

はすでに確認されていたが、それより南の地域については不明であった。発掘調査で、大隅海峡をこえて細石刃が発見されたのは、はじめてのことであり、分布圏の南限が種子島まで南下したことになる。このことから立切遺跡から出土した細石刃は大きな意味を持つものとなった。

また、特に注目すべき事は石材が大分県産の流紋岩と思われる、石器を作る際に生じる石くずも見されていることから、原石を手に入れて、石器を製作していたことが考えられる。

細石刃を作る技術も九州東南部地域と全く同様であり、この時期から本土との交流があったことを示している。

さらに、湊（西之表市）・大中峯（西之表市）遺跡でも細石核、細石刃が採集されており、石器文化が種子島に確実に浸透していたことが考えられる。

当時の種子島の人々の行動力は、驚くべきものである。



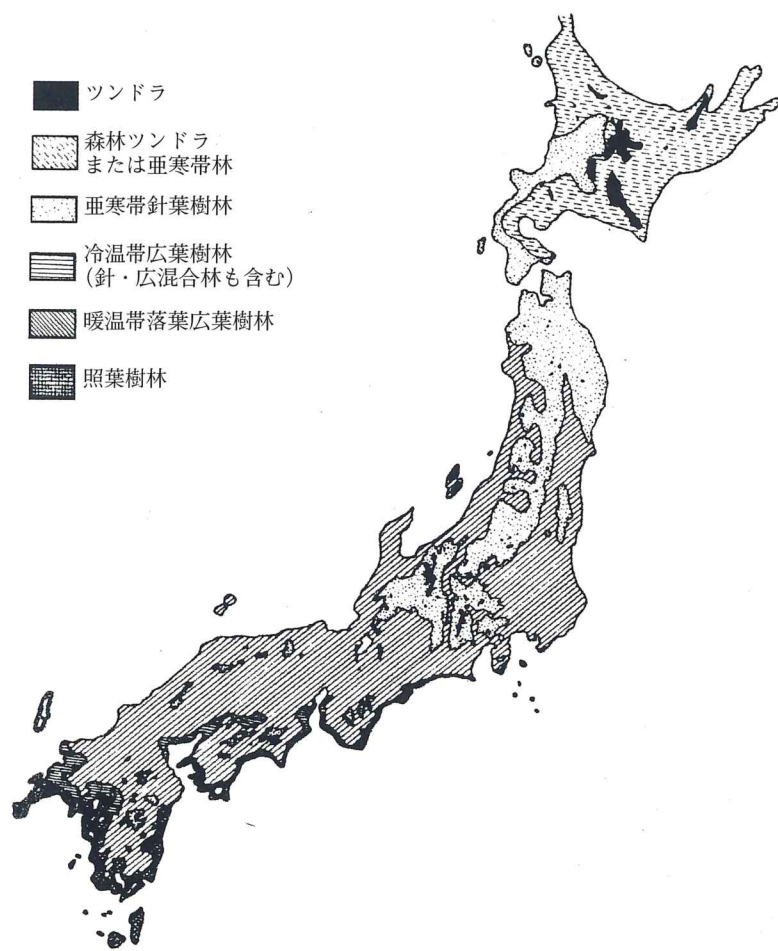
6 細石核・細石刃出土状況 立切遺跡 (種子島 中種子町)



7 細石核 湊遺跡 (種子島 西之表市国上)



8 細石核・細石刃 大中峯遺跡 (種子島 西之表市国上)



9 約1万年前の日本

旧石器時代から縄文時代へ

今から約一万二千年前になると、それまで長く続いていた氷河時代が終り、少しずつ気温が上昇してくると、氷河がとけて海水面が上昇し、大陸と陸続きだった日本列島は完全に海に囲まれる島となった。旧石器人が狩りの獲物としていた大型動物のいる湿原や平原は消滅していき、かわりに西日本はシイの林を代表とする照葉樹林、東日本はブナやナラの林の落葉広葉樹林が広がっていった。森にはたくさん木の実がなり、シカやイノシシなどの小型の動物が住むようになった。

日本列島の自然環境は大きく変わり、人々は獲物の群れを追いかける遊動生活をやめ、森の近くに定住するようになった。

人々は、土器・弓矢・鋭く研いだ石斧など、これまでなかった道具を発明し使用していく。

これらの発明は森や海の自然を利用して、育まれ、約一万年間も続いた縄文文化の始まりを告げるものであった。

種子島の縄文時代の夜明け

約一万五千年前頃、日本列島の最南端に位置する鹿児島は他の地域よりもいち早く暖かくなりだした。海水面上昇にともない、種子島や屋久島は、本土と完全に切り離され、島になったものと考えられている。

その後、約一万二千年前頃になると、奥ノ仁田



12 志風頭遺跡
(鹿児島県 加世田市)



10 奥ノ仁田遺跡
(種子島 西之表市立山)



14 奥ノ仁田遺跡
(種子島 西之表市立山)



13 掃除山遺跡
(鹿児島県 鹿児島市)



11 三角山遺跡
(種子島 中種子町)

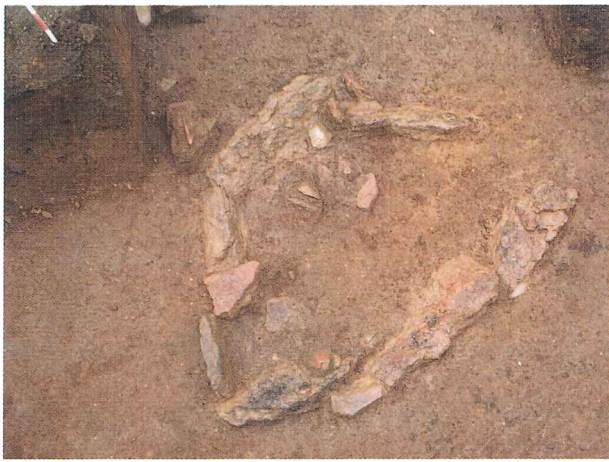
隆帯文土器

遊動から定住へ

(西之表市)・三角山(中種子町)・横峯D(南種子町)など、種子島には縄文時代草創期(縄文時代のはじまり)の広くて遺物も多い遺跡が多数存在している事が、最近の発掘調査で明らかとなっている。これらの遺跡からは、石鏃(矢じり)・すり石・たたき石・石皿・石斧・そして隆帯文土器(器面に粘土紐を帯のように貼り付けた土器・日本最古の土器群の一つ)が出土している。つまり、この時期に種子島の縄文文化は誕生しその文化は日本列島の中で、非常に進んでいたことがわかってきた。

鹿児島島の縄文時代草創期の代表的な遺跡として椿ノ原遺跡(加世田市)や掃除山遺跡(鹿児島市)などがある。これらの遺跡からも隆帯文土器や石鏃(矢じり)、石皿、すり石、磨製石斧が出土しており、掃除山遺跡では、竪穴住居跡・集石(石蒸し炉)・配石炉(炉跡)・連穴土坑(薫製炉)が発見され、椿ノ原遺跡でも集石・配石炉・連穴土坑が発見されている。志風頭遺跡(加世田市)からは、直径四十cmをこえる大型の隆帯文土器が出土し、瀧之段遺跡(市来町)では大量の石鏃が出土している。

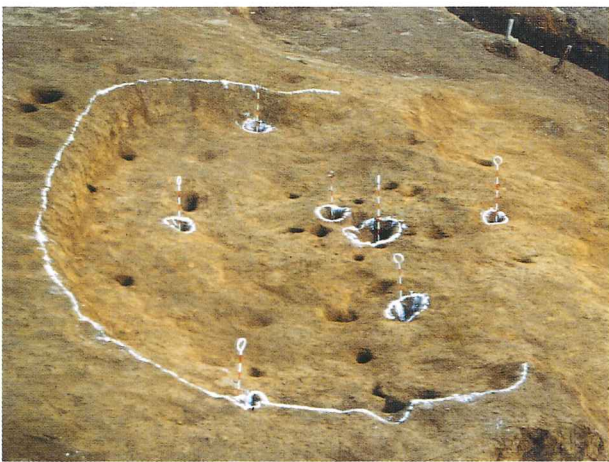
住居跡や調理場の跡、持ち運ぶことが困難な大型土器の出現などから、これまでの遊動生活をやめ、定住生活を行っていたことがわかってきた。



17 舟形配石炉 梶ノ原遺跡
(鹿児島県 加世田市)



15 梶ノ原遺跡 (鹿児島県 加世田市)



18 住居跡 掃除山遺跡 (鹿児島県 鹿児島市)



16 連穴土坑 梶ノ原遺跡
(鹿児島県 加世田市)

奥ノ仁田遺跡

奥ノ仁田遺跡からは約千五百点の隆帯文土器片と石器類が約三百点出土している。隆帯文土器が九州本土より南で見つかったのは初めての事であり、本土との交流が縄文時代草創期にはすでに行われていた事がはっきりした。

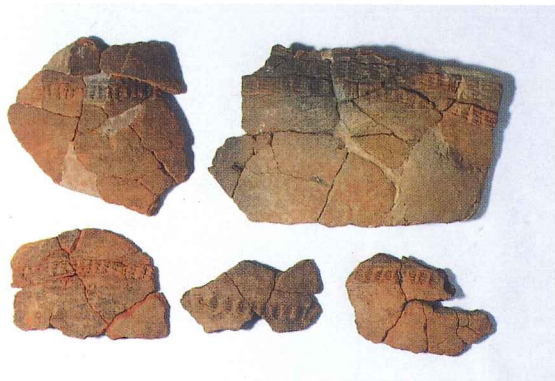
奥ノ仁田遺跡から出土した隆帯文土器の半数を占めるのは隆帯上に貝殻で文様を施すものであり、三角山(中種子町)など種子島の遺跡からは多数出土しているが、他ではこのような土器の出土例は、椎屋形第一(宮崎市)・大平(串間市)など宮崎県の遺跡から断片的に報告されているに過ぎず、今のところ種子島で発達した極めて地域性の強い土器と考えられている。

土器の形や隆帯の貼り付け方を見ると、掃除山遺跡(鹿児島市)・梶ノ原遺跡(加世田市)と共通する部分も見られる。

これらのことから、約一万二千年前の種子島の縄文人は黒潮を利用して宮崎方面と頻繁に交流を行い、また薩摩半島を含めた南九州全域とも交流を行っていた可能性があったことも考えられる。

さらに、高知県や静岡県でも縄文草創期の遺跡から南九州の隆帯文土器に酷似した土器片が出土しており、種子島を含めた南九州を中心に黒潮文化圏を形成していたのかもしれない。

南九州が全国に先駆けて定住を始めたのである。



22 奥ノ仁田遺跡 (種子島 西之表市立山)



19 奥ノ仁田遺跡 (種子島 西之表市立山)



23 奥ノ仁田遺跡 (種子島 西之表市立山)



20 奥ノ仁田遺跡 (種子島 西之表市立山)



24 二本松遺跡 (種子島 西之表市古田)



21 奥ノ仁田遺跡 (種子島 西之表市立山)

隆帯文土器片



28 三角山遺跡 (種子島 中種子町)



25 牧野遺跡 (種子島 西之表市安城)



29 椀ノ原遺跡 (鹿児島県 加世田市)



26 横峯遺跡 (種子島 南種子町)



30 掃除山遺跡 (鹿児島県 鹿児島市)



27 三角山遺跡 (種子島 中種子町)

隆帯文土器片



34 大平遺跡 (宮崎県 串間市)



31 掃除山遺跡 (鹿児島県 鹿児島市)



35 堂地西遺跡 (宮崎県 宮崎市)



32 椎屋形第1遺跡 (宮崎県 宮崎市)



33 椎屋形第1遺跡 (宮崎県 宮崎市)

隆帯文土器片



38 石皿 椀ノ原遺跡 (鹿児島県 加世田市)



36 石皿 奥ノ仁田遺跡
(種子島 西之表市立山)



39 石鏃 三角山遺跡 (種子島 中種子町)



37 石鏃 奥ノ仁田遺跡
(種子島 西之表市立山)

石器で注目されるのは、すり石・たたき石・石皿などの植物質加工工具がその大半を占める点である。このことは日本列島でもいち早く、温暖化に伴って発達していった照葉樹林を種子島の人々が積極的に利用したことを物語っている。

また、石斧・石鏃も出土しており、石斧では刃を鋭く研いだ磨製の石斧も出土しており、木材の伐採に利用されたと思われる。

石鏃は四点出土したが、その中で磨製石鏃が一点出土している。この時期の磨製石鏃の出土は全国でも初めてであり、最古のものである。以前は磨製の石鏃は弥生時代のもと考えられていたが近年、南九州では縄文時代早期の遺跡から出土した報告例が相次ぎ、磨製石鏃は縄文時代早期から出現するものと思われていたが、奥ノ仁田遺跡から出土したことにより、一気に縄文時代草創期から磨製の石鏃が存在することが明らかとなったのである。

丸ノミ形石斧の登場

南九州の縄文時代草創期遺跡の特徴的な遺物に丸ノミ形石斧がある。これは、「椀ノ原型石斧」とも呼ばれている。この石斧は刃部の平面・正面形が半月状で裏側が凹んでいるものである。

鹿児島県内では椀ノ原遺跡・掃除山遺跡など隆帯文土器に伴って出土している。

丸ノミ形石斧の出土・採集地を見ると、種



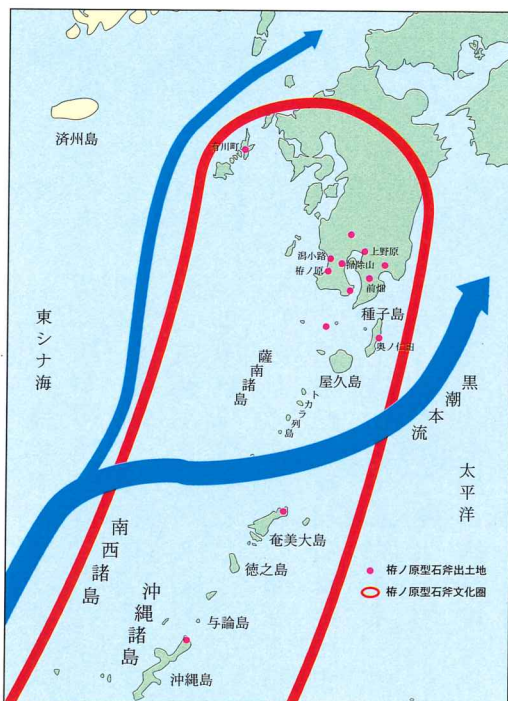
左 掃除山 (縄文時代草創期) 鹿児島県 鹿児島市
 中 瀉小路 (縄文時代草創期相当) 鹿児島県市来町
 右 梶ノ原 (縄文時代草創期) 鹿児島県加世田市

40 丸ノミ形石斧



上 前畑 (縄文時代早期)
 (鹿児島県鹿屋市)
 下 奥ノ仁田遺跡 (種子島西之表市)
 (縄文時代草創期相当)

41 丸ノミ形石斧



42 梶ノ原型石斧の文化圏

子島の西之表市「奥ノ仁田」、奄美大島の笠利町「赤木名」や沖縄県国頭村「カヤウチバンタ貝塚」など南九州以南の数カ所で発見されている。
 また、最近、長崎県五島列島でもこの石斧が採集されていたことが報告され、その分布圏が、さらに北上することが明らかとなった。
 丸ノミ形石斧はその形態から、木をくりぬいて舟を作るのに使われたと思われる、丸木舟の存在や当時の縄文人の交流、黒潮にのって北上した文化など様々な事を語りかけてくれるものである。



46 磨製石斧 柗ノ原遺跡
(鹿児島県 加世田市)



43 石斧 瀧之段遺跡 (鹿児島県 市来町)



44 石斧 柗ノ原遺跡 (鹿児島県 加世田市)



47 磨製石斧 奥ノ仁田遺跡
(種子島 西之表市立山)



45 石斧 掃除山遺跡 (鹿児島県 鹿児島市)



50 下剥峯式土器 西丸尾遺跡
(鹿児島県 鹿屋市)



48 吉田式土器 岩ノ上遺跡
(鹿児島県 鹿屋市)



51 下剥峯式土器 下剥峯遺跡
(種子島 西之表市現和)



49 吉田式土器 日守遺跡
(種子島 西之表市安城)

本土と同じ文化圏

縄文時代早期（約九千五百年前）以降になると種子島は、ほぼ鹿児島県本土と同一の文化圏に入ると考えられている。それは、種子島の遺跡から出土する土器などが、本土の遺跡から出土するものと、同じ特徴を持っているからである。

種子島の縄文人は積極的に交流を進めていたものと考えられる。

貝殻文土器

縄文時代早期前半、南九州地方は土器に縄文ではなく、貝殻で文様をつけた円筒形の土器を盛んに製作している。種子島でもこの種の土器は多数出土している。貝殻で文様を施す土器は、縄文時代草創期の種子島の遺跡から出土する隆帯文土器にみられたもので、貝殻文土器の原型は種子島の文化が、少しは影響を与えたのかもしれない。

最古の定住集落跡

縄文時代草創期から日本列島でも進んでいた九州の縄文文化は、早期前半になると成熟度を増し、年間を通じた定住生活を確立するまでになる。

加栗山遺跡（鹿児島市）では、しっかりとした竪穴住居跡が見つかり、上野原遺跡（国分市）では、約九千五百年前の国内最大かつ最古級の定住集落跡が発見されている。



54 平椀式土器



52 平椀式土器 (複製品)



55 ミニチュア土器 (複製品)



53 異形石器・土偶 (複製品)

上野原遺跡 (鹿児島県 国分市) 出土物

壺形土器の出現

上野原遺跡第三地点からは、約七千五百年前の遺物が約十萬点出土した。土器は壺形土器をはじめ多種多様であり、耳飾りや土偶、異形石器など上野原の縄文人の豊かな精神生活を示している。出土した土器は、縄文時代早期後半の平椀式が大部分を占め、この土器は二本松遺跡(西之表市)など種子島の遺跡でも確認されている。

城ヶ尾遺跡(福山町)でも同じ時期の塞ノ神式の壺形土器が出土している。

塞ノ神式土器は種子島において、最も多く出土する土器のひとつで、代表する遺跡に輪野尾遺跡(中種子町)などがある。

押型文土器の伝播

西之表市国上「久保田」からは楕円押型文土器が二点、山形押型文土器が五点採集されている。押型文土器は、縄文時代早期の土器で、南九州においては外来系の土器と見られている。

種子島で、外来系の土器型式はそれまで確認されていなかったため、押型文土器の発見は南九州の縄文文化を考えるうえでも重要な意義をもつものとなった。

鬼界カルデラの大噴火

約六千四百年前に硫黄島・竹島付近の鬼界カルデラが大噴火をおこした。種子島には最初に火砕



58 塞ノ神式土器 前畑遺跡
(鹿児島県 鹿屋市)



56 塞ノ神式土器 城ヶ尾遺跡
(鹿児島県 福山町)



59 押型文土器 久保田遺跡
(種子島 西之表市国上)



57 塞ノ神式土器 城ヶ尾遺跡
(鹿児島県 福山町)

琉球列島との交流
 壘式・曾畑式土器とほぼ同時期のころ、種子島には北との交流だけでなく、南との交流もあった

壘式土器に続いて登場するのが、曾畑式土器である。この土器も北・中九州に分布の中心をもつものであるが、その交流の地域は、朝鮮半島南部や沖縄まで広がっている。
 種子島や屋久島では本城遺跡（西之表市）一湊松山遺跡（上屋久町）など曾畑式土器文化が直接本土から入り込んできている遺跡が発見されている。

壘式・曾畑式土器の文化
 鬼界カルデラの噴火に前後して、南九州には、北・中九州に分布の中心をもつ壘式土器（約六千年前）を伴う文化が南進してくる。この土器は、下剥峯遺跡（西之表市）・平庭B遺跡（西之表市）・一湊松山遺跡（上屋久町）など種子島、屋久島でも確認され奄美大島・沖縄へは、やや文様の付け方が変化しながらも伝わっている。

流が押しよせ、その後火山灰が島全体を覆ったと考えられている。
 この火山灰はアカホヤと呼ばれ関東地方や北陸地方さらには朝鮮半島でも確認され、種子島はもちろんのこと南九州に大きな打撃を与えたと考えられている。



63 曾畑式土器 本城遺跡
(種子島 西之表市)



60 轟式土器 神野牧遺跡
(鹿児島県 鹿屋市)



64 曾畑式土器 一湊松山遺跡
(屋久島 上屋久町)



61 轟式土器片 平庭B遺跡
(種子島 西之表市国上)



65 曾畑式土器 一湊松山遺跡
(屋久島 上屋久町)



62 曾畑式土器 一湊松山遺跡
(屋久島 上屋久町)

事を示すものがある。

下剥峯遺跡(西之表市)からは、沖縄諸島を中に分布する室川下層式土器が出土している。種子島でこの土器が出土した事は、重要な意味をもち、九州から琉球への交流だけでなく、琉球から九州へという交流があった事を物語っている。

市来式土器をたずさえた人々

縄文時代後期中頃(約三千五百年前)になると市来式土器が登場する。この土器は南九州を主に出土するが、種子島・屋久島でもこの土器が出土する遺跡は数多く確認されている。また、奄美大島の宇宿貝塚(笠利町)・沖縄の浦添貝塚(浦添市)などでも出土し、市来式土器をたずさえた南九州人が南島に住み着いたことが確認できる遺跡も発見されている。

草野貝塚(鹿児島市)からは市来式土器とともに舟を模造したと思われる、軽石製品が出土している。南島と交流を盛んに行っていた当時の人々にとって、舟は必要不可欠なものであり、人々の舟に對する思いが伝わってくるものである。藤平小田遺跡(南種子町)からは、縄文時代後期の日本で最南端の、配石遺構が六十六基発見されている。この配石については現在調査中であるが、もし、この配石が建物の柱跡だとすると、かなり大がかりな建物であると想像される。遺跡は海を見下ろす台地に形成されており、この建物を目当



68 市来式台付皿形土器 草野貝塚
(鹿児島県 鹿児島市)



66 市来式土器 草野貝塚
(鹿児島県 鹿児島市)



69 市来式土器 干迫遺跡
(鹿児島県 加治木町)



67 市来式土器 干迫遺跡
(鹿児島県 加治木町)



70 市来式土器 浦添貝塚 (沖縄県 浦添市)

てに人々が南へ、あるいは北へと舟をすすめてい
つた事も想像できる。



73 市来式土器 干迫遺跡
(鹿児島県 加治木町)



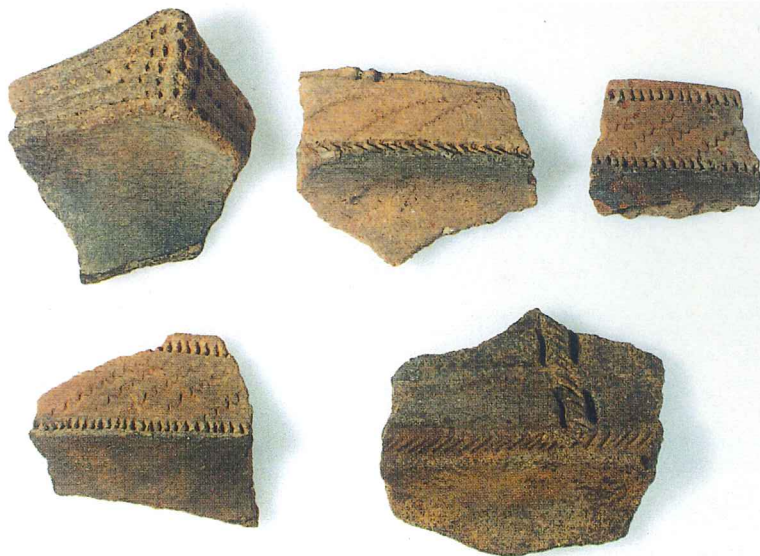
71 市来式土器片 大花里遺跡
(種子島 西之表市)



74 市来式土器片 宇宿貝塚
(奄美大島 笠利町)



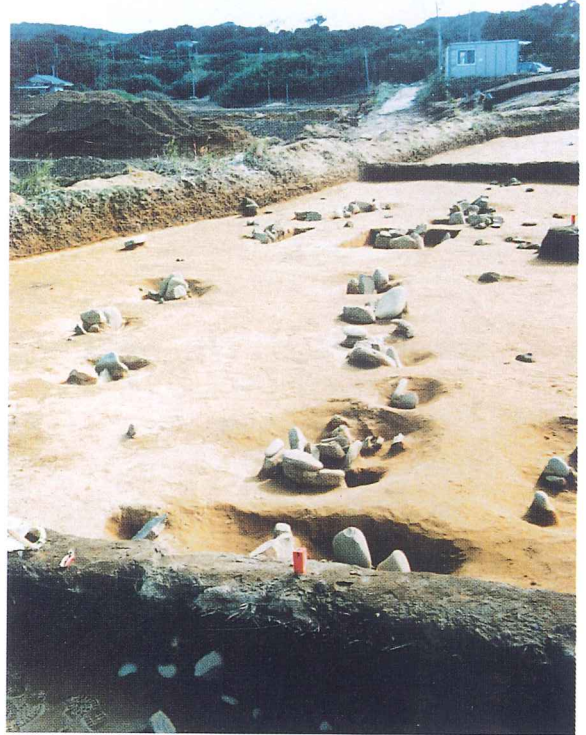
72 市来式土器 干迫遺跡
(鹿児島県 加治木町)



75 市来式土器片 藤平小田遺跡 (種子島 南種子町)



77 配石 藤平小田遺跡 (種子島 南種子町)

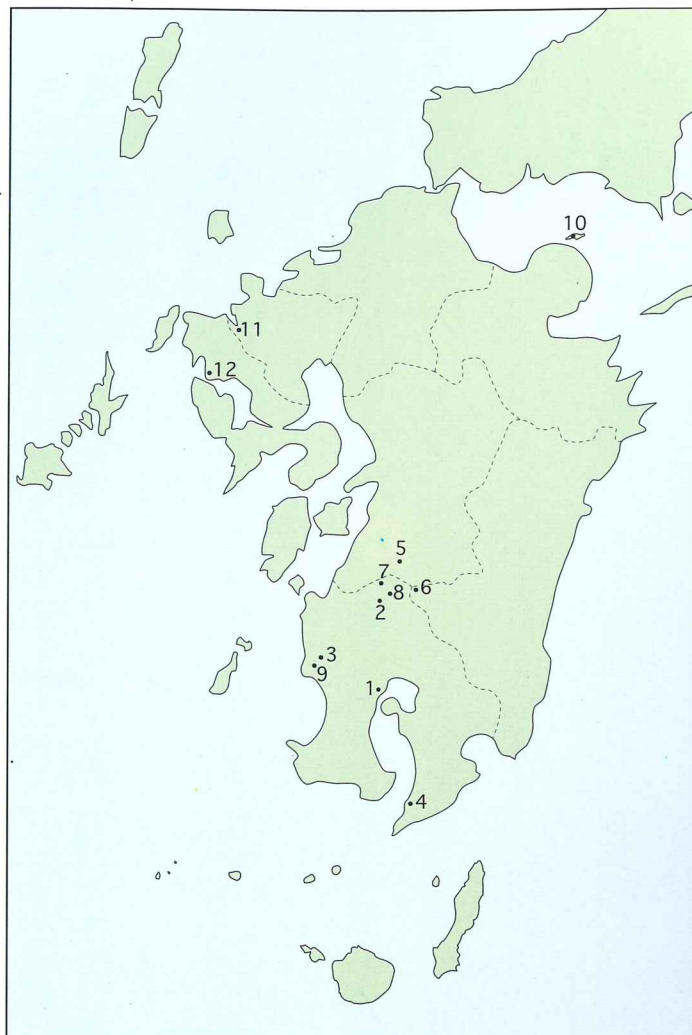


76 配石遺構 藤平小田遺跡
(種子島 南種子町)



78 配石遺構 藤平小田遺跡 (種子島 南種子町)

No.	地名	所在地
1	三船 (みふね)	鹿児島市吉野町
2	日東 (にっとう)	大口市平出水
3	上牛鼻 (かみうしばな)	薩摩郡樋脇町
4	長谷 (ながたに)	肝属郡大根占町
5	白浜 (しらはま)	熊本県球磨郡球磨村
6	桑ノ木津留 (くわのきづる)	大口市・人吉市・えびの市境附近
7	五女木 (ごめぎ)	大口市山野
8	狸々 (しょうじょう)	大口市山野
9	平木場 (ひらこば)	日置郡市来町
10	姫島 (ひめしま)	大分県
11	腰岳 (こしだけ)	佐賀県
12	針尾 (はりお)	長崎県



79 九州の主な黒曜石産地

海を渡った黒曜石

先史時代において、石器は生活に欠かせない道具であり、その石器を作るのに日本各地で黒曜石は使われてきた。ガラスのような鋭利な切り口を持つこの石は、石器を作るのに最も適していたのである。

黒曜石は日本中どこからでも産出する訳ではなく、代表的な産地は全国で約六十ヶ所が確認されている。このうち、石器の材料として利用されたのは、北海道の白滝・長野県の和田峠・伊豆諸島神津島・島根県の隠岐島・大分県の姫島・佐賀県の腰岳などごく限られているため、この石を分析する事で産地がわかり、当時の人々の交流範囲を知る事ができる。

なかでも、隠岐島の黒曜石は、日本海を越えたウラジオストック・ナホトカ・朝鮮半島からも発見されており、交流の広さを示している。種子島でも、奥ノ仁田遺跡（西之表市）で縄文時代早期の層から姫島産・腰岳産の黒曜石が出土している。また、島内各地の遺跡からは三船・日東など、鹿児島産と思われる黒曜石が多数出土している。

黒曜石のとれない種子島で、この石が発見される事は、種子島の縄文人たちが黒曜石を求め、海をこえて、交流を盛んに行っていたものと思われる。黒曜石のかけらが、縄文人の交流範囲を我々に教えてくれるのである。



80 ヒスイ製品 現和巢遺跡 (種子島 西之表市現和)



81 ヒスイ製品 市ノ原遺跡 (鹿児島県 東市来町)

種子島に渡ったヒスイ

現和巢遺跡(西之表市)から縄文時代後期のヒスイ製品が発見されている。このヒスイ製品は新潟県系魚川産と思われる、海をこえてはるばる種子島まで運ばれてきたと思われる。

また、市ノ原遺跡(東市来町)や上加世田遺跡(加世田市)など薩摩半島に所在する縄文晩期の遺跡からもヒスイ製品は発見されており、沖縄からも数か所の遺跡より縄文時代のヒスイ製品が出土している。

ヒスイを通して、縄文人の交流の広さを垣間見ることができる。

玦状耳飾り

玦状耳飾りは、中国の青銅器時代の玉器ぎよくきである。「玦」けつによく似た形なのでこの名がついた。

石をドーナツ状につややかに磨き上げ、下側に切れ込みを入れ、耳たぶにあけた穴に通してぶら下げたもので、この耳飾りは割れてしまっても補修して使用している。

玦状耳飾りの起源は中国の南京付近から上海に至る長江下流域にあると思われる。そして、形態をかえながら台湾・中国華南方面・ベトナム・インドネシア方面にも広がりを見せ、東端は南太平洋上のソロモン群島にまで及んでいる。鹿児島県では薩摩半島を主に西海岸沿いで多く発見されているが、種子島の泉原遺跡(西之表市)で



発見された玦状耳飾りは、東アジア大陸との交流を考えるうえで、重要な意味を持つものである。

82 九州における玦状耳飾り出土地



83 块状耳飾 泉原遺跡
(種子島 西之表市現和)



85 块状耳飾 草垣島 (鹿児島県)



84 块状耳飾 西之園遺跡
(鹿児島県 笠沙町)



86 块状耳飾 上焼田遺跡
(鹿児島県 金峰町)



87 丸木舟 鳥浜貝塚（福井県）
全長6メートル以上 縄文時代前期



88 丸木舟 伊木力遺跡（長崎県）
全長推定7メートル以上 縄文時代前期

縄文時代の船

氷河期には海面が現在より低くなっており、日本列島はアジア大陸と陸続きとなっていたが、氷河期が終り、気温が徐々に上がってくると、海面が上昇し、縄文時代の始まりの頃には、日本列島は、ほぼ現在の形になったと言われており、種子島も現在のように本土と切り離されたと考えられている。しかし、交流は途絶えることがなく、ますます盛んに行われていたことを、遺跡から出土する様々なモノが証明している。

交流を行うためには船が必要であり、船は重要な役割を果たしたと思われる。

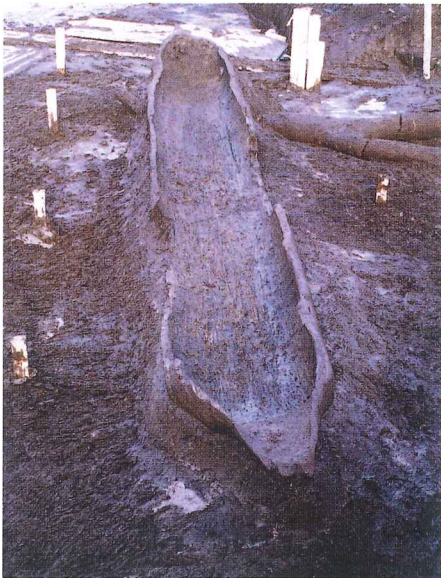
縄文時代の遺跡からは、丸木舟以外の船は発見されていないため、海上交通には丸木舟が用いられたと考えられている。

発掘された縄文の丸木舟

鳥浜貝塚（福井県）からは縄文時代前期（約六千年前）の丸木舟と櫂が出土しており、現在国内最古の丸木舟のひとつとされている。

縄文時代の丸木舟は、鰹節のように船首と船尾が尖った形で、全長五〜六メートルのものが多く、最近の発掘調査で六〜七メートルを超える大型の丸木舟も出土している。

九州では現在のところ、縄文時代前期の伊木力遺跡（長崎県）出土の丸木舟が、最も古いとされている。



91 丸木舟 桂見遺跡 (鳥取県)
全長7.2メートル 縄文時代後期



89 丸木舟 中里遺跡 (東京都)
全長5.7メートル 縄文時代中期



92 丸木舟三田谷I遺跡 (島根県)
全長5.6メートル 縄文時代晩期



90 丸木舟 浦入遺跡 (京都府)
全長推定10メートル 縄文時代前期

丸木舟の果たした役割

今のところ、最も古い丸木舟の出土例は縄文時代前期であるが、さらに古い時期から丸木舟は使われていたと思われる。

種子島に伝わった細石器文化や、主に種子島で出土する縄文時代草創期の貝殻で文様をつけた隆帯文土器が、宮崎地方で発見されている点、また丸木舟を造る工具と考えられている、丸ノミ形石斧の発見などから南九州では、この時期、すでに丸木舟を使用していたと思われる。

このことは、縄文時代草創期において、日本列島の中で非常に進んでいた南九州の縄文文化を産みだした事や、その後続く、上野原遺跡を代表するような、縄文時代早期の豊かな文化の形成に丸木舟は重要な役割を果たしたと考えられる。

種子島の縄文人たちも、黒潮に挑み、波濤を乗り越えて、各地へ行ったのであろう。



93 石槍 園田遺跡 (種子島 中種子町)

本展示会を準備中、園田遺跡(中種子町)から縄文時代草創期(約一万二千年前)の石槍が出土したという発表があった。石槍は「神子柴型」と呼ばれるタイプで、信州や関東地方を中心に出土するもので、北アジアが起源とされる神子柴文化に属するものといわれている。鹿児島県内で、この石槍が完全な形で発見されたのは初めてのことであり、種子島は神子柴文化の南限地となった。石槍は、約一万二千前の信州・関東地方の文化が、海をこえて種子島まで伝わっていた事を示すものとなった。

海をこえて

種子島は、縄文時代草創期(約一万二千年前・縄文時代が始まりを告げたころ)の遺跡が多数存在し、この時期日本列島の中でも活力があり、極めて高い文化を持っていたものと考えられるようになってきた。

その後、一万年に及ぶ縄文時代の中で、種子島の縄文人たちは、様々な土地へ出かけていった。また、他の地域の文化が種子島へ流入した事を、遺跡から発見される土器や石器が物語っている。自らの脚と丸木舟しか輸送手段をもたなかった縄文人だが、我々が想像するよりはるかに広い交流を行っていたのである。

周囲を海に囲まれた種子島の縄文人たちは、潮



種子島の海

流・海流を熟知し、舟を漕ぎすすめていったのであろう。

種子島の最北端の地「喜志鹿崎」に立つと、海峡をはさんで、九州最南端の大隅半島が眼前に広がり、その向こうには薩摩半島最南端の開聞岳も望むことができる。

種子島の縄文人たちも、さぞやこの地にたたずみ、海の向こうに広がる大きな九州本土をながめ、その雄大さと豊饒なる大地にあこがれを抱いていたに違いない。それらが、彼らを大海に駆りたて、荒々しい自然に果敢に挑みながら、未知なる世界との交流を命がけで求めていったのである。

縄文人たちの、知恵と勇氣に感嘆せずにはいられない。

今回の展示会は、南は沖縄から、北は関東地方まで広範囲な交易があったことが、実物を通して理解できる。

種子島の縄文時代の始まりについては、まだ不明な点も多く、その研究も緒に付いたばかりである。今後の埋蔵文化財の発掘に期待したい。

参考文献

書 籍 名		著 者 等	発 行
「先石器時代の知識」	考古学シリーズ 3	鈴木忠司	東京美術
「旧石器の知識」	考古学シリーズ 11	芹沢長介	東京美術
「装身具と骨角製漁具の知識」	考古学シリーズ 13	江坂輝彌・渡辺 誠	東京美術
「日本の古代遺跡 38 鹿児島」		河口貞徳	保育社
「日本の古代遺跡 47 沖縄」		嵩元政秀・安里嗣淳	保育社
「照葉樹林文化の道」	NHKブックス 422	佐々木高明	日本放送出版協会
「鹿児島県の歴史」	県史 46	原口 泉 他4名	山川出版社
「遠き狩人たちのハヶ岳」		堤 隆	ほおずき書籍
季刊「考古学」 第48号			雄山閣
季刊「考古学」 第64号			雄山閣
「発掘された日本列島」 '97	新発見考古速報	文化庁編	朝日新聞社
「鹿児島の縄文文化」	第1回日本文化の原点・国分上野原シンポジウム	国分上野原シンポジウム実行委員会	
「発掘!!上野原遺跡」			南日本新聞社
「海を渡った縄文人」	縄文時代の交流と交易	橋口尚武編著	小学館
「日本のヒスイ」		寺村光晴	吉川弘文館
「かごしま考古新地図」		南日本新聞社編	雄山閣
「ハヤト・南島共和国」	かごしま文庫 29	中村明蔵	春苑堂出版
「原日本人」 弥生人と縄文人のナゾ	旧石器人が眺めた風景	小野有五	朝日新聞社
「原日本人」 弥生人と縄文人のナゾ	大陸からの孤立を物語る動物群	河村善也	朝日新聞社
「マンガ日本の歴史」45	旧石器人の登場	石ノ森章太郎	中央公論社
「マンガ日本の歴史」46	縄文時代の始まり	石ノ森章太郎	中央公論社
「マンガ日本の歴史」47	縄文社会の繁栄	石ノ森章太郎	中央公論社
「日本の遺跡なんでも事典」		白石太一郎 監修	集英社
「鹿児島県 埋蔵文化財の知識」			鹿児島県教育委員会
大系「日本の歴史」1	日本人の誕生	佐原 眞	小学館
「縄文土器大観」第1巻	草創期 早期 前期	小林達雄 編集	小学館
「縄文土器大観」第4巻	後期 晩期 続縄文	小林達雄 編集	小学館
「少年少女人物日本の歴史」1	縄文人の生活	佐原 眞 監修	小学館
「古代史復元」1	旧石器人の生活と集団	稲田孝司 編	講談社
「古代史復元」2	縄文人の生活と文化	鈴木公雄 編	講談社
「縄文時代草創期」資料集		横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団	横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団
「日本の古代 3」	海をこえての交流	大林太良 編	中公文庫
「日本の発掘」	新遺跡カタログ Vol. 4		朝日新聞社
「潮流」第3号			種子島考古学研究会
市来町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)	瀧之段遺跡 他		市来町教育委員会
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(20)	神野牧遺跡		鹿児島県立埋蔵文化財センター
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(23)	上野原遺跡		鹿児島県立埋蔵文化財センター
鹿児島県立埋蔵文化財発掘調査報告書(52)	前畑遺跡(第6分冊)		鹿児島県教育委員会
南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	横峯遺跡		南種子町教育委員会
西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)	奥ノ仁田遺跡・奥嵐遺跡		西之表市教育委員会
西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書	下剥峯遺跡 他		西之表市教育委員会
西之表市納曾遺跡			西之表市立博物館
立切遺跡現地説明会資料			中種子町教育委員会

図版目録

No.	資料名	時代	遺跡名	所在地	所蔵・提供者
1	礫群	旧石器	横峯	南種子町	南種子町教育委員会
2	礫群断面	旧石器	横峯	南種子町	南種子町教育委員会
3	約2万年前の日本				「環境考古学事始」安田喜憲1980より
4	石器出土状況	旧石器	立切	中種子町	中種子町教育委員会
5	焼土跡	旧石器	立切	中種子町	中種子町教育委員会
6	細石核 細石刃	旧石器終末期	立切	中種子町	中種子町教育委員会
7	細石核	旧石器終末期	湊	西之表市	西之表市教育委員会
8	細石核 細石刃	旧石器終末期	大中峯	西之表市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
9	約1万3千年前の日本				「環境考古学事始」安田喜憲1980より
10	隆帯文土器	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
11	隆帯文土器	縄文草創期	三角山	中種子町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
12	隆帯文土器	縄文草創期	志風頭	加世田市	加世田市教育委員会
13	隆帯文土器	縄文草創期	掃除山	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
14	隆帯文土器	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
15	遺跡遠景	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
16	連穴土坑	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
17	舟形配石炉	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
18	住居跡	縄文草創期	掃除山	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
19	隆帯文土器片	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
20	隆帯文土器片	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
21	隆帯文土器片	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
22	隆帯文土器片	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
23	隆帯文土器片	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
24	隆帯文土器片	縄文草創期	二本松	西之表市	西之表市教育委員会
25	隆帯文土器片	縄文草創期	牧野	西之表市	西之表市教育委員会
26	隆帯文土器片	縄文草創期	横峯	南種子町	南種子町教育委員会
27	隆帯文土器片	縄文草創期	三角山	中種子町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
28	隆帯文土器片	縄文草創期	三角山	中種子町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
29	隆帯文土器片	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
30	隆帯文土器片	縄文草創期	掃除山	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
31	隆帯文土器片	縄文草創期	掃除山	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
32	隆帯文土器片	縄文草創期	椎屋形第1	宮崎市	宮崎市教育委員会
33	隆帯文土器片	縄文草創期	椎屋形第1	宮崎市	宮崎市教育委員会
34	隆帯文土器片	縄文草創期	大平	串間市	河口貞徳氏
35	隆帯文土器片	縄文草創期	堂地西	宮崎市	宮崎県立埋蔵文化財センター
36	石皿	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
37	石鏃	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
38	石皿	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
39	石鏃	縄文草創期	三角山	中種子町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
40	丸ノミ形石斧	縄文草創期	掃除山	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
		縄文草創期相当	瀉小路	市来町	市来町教育委員会
		縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
41	丸ノミ形石斧	縄文早期	前畑	鹿屋市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
		縄文草創期相当	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会
42	梶ノ原型石斧の文化圏		小田静雄氏	原図を参考に作成	
43	石鏃	縄文草創期	瀧之段	市来町	市来町教育委員会
44	石鏃	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
45	石鏃	縄文草創期	掃除山	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
46	磨製石斧	縄文草創期	梶ノ原	加世田市	加世田市教育委員会
47	磨製石斧	縄文草創期	奥ノ仁田	西之表市	西之表市教育委員会

No.	資料名	時代	遺跡名	所在地	所蔵・提供者
48	吉田式土器	縄文早期	岩ノ上	鹿屋市	鹿屋市教育委員会
49	吉田式土器	縄文早期	日守	西之表市	西之表市教育委員会
50	下剥峯式土器	縄文早期	西丸尾	鹿屋市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
51	下剥峯式土器	縄文早期	下剥峯	西之表市	西之表市教育委員会
52	平楯式土器 (複製品)	縄文早期	上野原	国分市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
53	異形石器 (複製品) 土偶(複製品)	縄文早期	上野原	国分市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
54	平楯式土器	縄文早期	上野原	国分市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
55	ミニチュア土器 (複製品)	縄文早期	上野原	国分市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
56	塞ノ神式土器	縄文早期	城ヶ尾	福山町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
57	塞ノ神式土器	縄文早期	城ヶ尾	福山町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
58	塞ノ神式土器	縄文早期	前畑	鹿屋市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
59	押型文土器	縄文早期	久保田	西之表市	西之表市教育委員会
60	轟式土器	縄文前期	神野牧	鹿屋市	鹿児島県立埋蔵文化財センター
61	轟式土器片	縄文前期	平庭B	西之表市	西之表市教育委員会
62	曾畑式土器	縄文後期	一湊松山	上屋久町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
63	曾畑式土器	縄文後期	本城	西之表市	西之表市教育委員会
64	曾畑式土器	縄文後期	一湊松山	上屋久町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
65	曾畑式土器	縄文後期	一湊松山	上屋久町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
66	市来式土器	縄文後期	草野貝塚	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
67	市来式土器	縄文後期	干迫	加治木町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
68	市来式台付皿形土器	縄文後期	草野貝塚	鹿児島市	鹿児島市教育委員会
69	市来式土器	縄文後期	干迫	加治木町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
70	市来式土器	縄文後期	浦添貝塚	浦添市	新田重清氏
71	市来式土器片	縄文後期	大花里	西之表市	西之表市教育委員会
72	市来式土器	縄文後期	干迫	加治木町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
73	市来式土器	縄文後期	干迫	加治木町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
74	市来式土器片	縄文後期	宇宿貝塚	笠利町	笠利町教育委員会
75	市来式土器片	縄文後期	藤平小田	南種子町	南種子町教育委員会
76	配石遺構	縄文後期	藤平小田	南種子町	南種子町教育委員会
77	配石	縄文後期	藤平小田	南種子町	南種子町教育委員会
78	配石遺構	縄文後期	藤平小田	南種子町	西之表市教育委員会撮影
79	九州の主な黒曜石産地		大久保 浩二氏 原図を参考に作成		
80	ヒスイ製品	縄文後期	現和巢	西之表市	下村照夫氏
81	ヒスイ製品	縄文晩期	市ノ原	東市来町	鹿児島県立埋蔵文化財センター
82	九州における 玦状耳飾り		上田 耕氏 原図を参考に作成		
83	玦状耳飾り	縄文	泉原	西之表市	西之表市教育委員会
84	玦状耳飾り	縄文	西之蘭	笠沙町	鹿児島県立博物館
85	玦状耳飾り	縄文	草垣島		枕崎市教育委員会
86	玦状耳飾り	縄文	上焼田	金峰町	鹿児島県立博物館
87	丸木舟	縄文前期	鳥浜貝塚	福井県	若狭歴史資料館
88	丸木舟	縄文前期	伊木力	長崎県	同志社大学文学部
89	丸木舟	縄文中期	中里	東京都	東京都北区教育委員会
90	丸木舟	縄文前期	浦入	京都府	京都府埋蔵文化財調査研究センター
91	丸木舟	縄文後期	桂見	鳥取県	鳥取県埋蔵文化財センター
92	丸木舟	縄文晩期	三田谷 I	島根県	島根県埋蔵文化財調査センター
93	石槍	縄文時代草創期	園田	中種子町	西之表市教育委員会撮影

展示品目録

No.	資料名	点数	遺跡名	所在地	時代	所蔵・提供者
1	ナイフ形石器	2	小牧ⅢA	指宿市	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
2	剥片尖頭器	3	小牧ⅢA	指宿市	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
3	台形石器	3	小牧ⅢA	指宿市	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
4	調査状況写真	5	立切	中種子町	旧石器	中種子町教育委員会
5	石斧	1	立切	中種子町	旧石器	中種子町教育委員会
6	砥石写真	1	立切	中種子町	旧石器	中種子町教育委員会
7	細石核・細石刃写真	1	立切	中種子町	旧石器	中種子町教育委員会
8	搔器	1	仁田尾	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
9	彫器	1	仁田尾	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
10	ナイフ形石器	3	仁田尾	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
11	三稜尖頭器	1	前山	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
12	剥片尖頭器	1	前山	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
13	ハンマーストーン写真	1	横峯	南種子町	旧石器	南種子町教育委員会
14	礫群内礫	30	横峯	南種子町	旧石器	南種子町教育委員会
15	細石核	3	大中峯	西之表市	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
16	細石刃	3	大中峯	西之表市	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
17	細石核	3	仁田尾	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
18	細石刃	30	仁田尾	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
19	細石刃装着標本模型	1	仁田尾	松元町	旧石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター
20	細石核	1	湊	西之表市	旧石器	西之表市教育委員会
21	隆帯文土器片	1	大平	串間市	縄文草創期	河口貞徳氏
22	隆帯文土器片写真	2	奥谷南	南国市	縄文草創期	高知県立埋蔵文化財センター
23	石皿	3	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
24	磨石	1	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
25	石鏃	4	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
26	石斧	9	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
27	砥石	4	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
28	丸ノミ形石斧	1	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期相当	西之表市教育委員会
29	隆帯文土器	3	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
30	隆帯文土器片	55	奥ノ仁田	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
31	石皿	1	梶ノ原	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
32	凹石	1	梶ノ原	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
33	石鏃	7	梶ノ原	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
34	石斧	3	梶ノ原	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
35	丸ノミ形石斧	1	梶ノ原	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
36	隆帯文土器片	10	梶ノ原	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
37	丸ノミ形石斧	1	瀧小路	市来町	縄文草創期相当	市来町教育委員会
38	隆帯文土器写真	2	葛原沢第Ⅳ	沼津市	縄文草創期	沼津市文化財センター
39	磨石	1	三角山	中種子町	縄文草創期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
40	石鏃	3	三角山	中種子町	縄文草創期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
41	砥石	1	三角山	中種子町	縄文草創期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
42	隆帯文土器	1	三角山	中種子町	縄文草創期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
43	隆帯文土器片	20	三角山	中種子町	縄文草創期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
44	隆帯文土器片	3	宮田	中種子町	縄文草創期	中種子町教育委員会
45	隆帯文土器片	17	椎屋形第Ⅰ	宮崎市	縄文草創期	宮崎市教育委員会
46	隆帯文土器	1	志風頭	加世田市	縄文草創期	加世田市教育委員会
47	隆帯文土器	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
48	隆帯文土器片	12	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
49	磨石	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
50	石鏃	3	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
51	石斧	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
52	丸ノミ形石斧	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
53	石皿	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
54	住居跡写真	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
55	調査状況写真	1	掃除山	鹿児島市	縄文草創期	鹿児島市教育委員会
56	石鏃	30	瀧之段	市来町	縄文草創期	市来町教育委員会
57	調査状況写真	1	瀧之段	市来町	縄文草創期	市来町教育委員会
58	隆帯文土器片	17	堂地西	宮崎市	縄文草創期	宮崎県立埋蔵文化財センター
59	隆帯文土器片	5	二本松	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会

No.	資料名	点数	遺跡名	所在地	時代	所蔵・提供者
60	隆帯文土器片	2	牧野	西之表市	縄文草創期	西之表市教育委員会
61	隆帯文土器片	5	横峯	南種子町	縄文草創期	南種子町教育委員会
62	塞ノ神式土器	1	赤木	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
63	石鏃	3	石ノ峯	南種子町	縄文早期	南種子町教育委員会
64	吉田式土器	1	岩ノ上	鹿屋市	縄文早期	鹿屋市教育委員会
65	異形石器(複製品)	5	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
66	石皿	2	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
67	磨石	2	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
68	石鏃	9	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
69	打製石斧	2	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
70	土偶(複製品)	1	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
71	平椀式土器	1	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
72	平椀式土器(複製品)	2	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
73	磨製石斧	2	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
74	丸ノミ形石斧	1	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
75	ミニチュア土器(複製品)	3	上野原	国分市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
76	磨製石鏃	1	牛野原	中種子町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
77	石鏃	3	奥嵐	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
78	石鏃	6	奥ノ仁田	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
79	前平式土器・角筒	1	加栗山	鹿児島市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
80	前平式土器・角筒	1	加栗山	鹿児島市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
81	吉田式土器	1	加栗山	鹿児島市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
82	前平式土器・角筒	1	桑ノ丸	溝辺町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
83	打製石鏃	5	三角山	中種子町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
84	磨製石鏃	2	三角山	中種子町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
85	下剥峯式土器	4	下剥峯	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
86	塞ノ神式土器・壺	1	城ヶ尾	福山町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
87	塞ノ神式土器・深鉢	1	城ヶ尾	福山町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
88	吉田式土器	6	須行園	中種子町	縄文早期	中種子町教育委員会
89	磨製石鏃	1	須行園	中種子町	縄文早期	中種子町教育委員会
90	塞ノ神式土器片	2	寺之門	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
91	石皿	1	寺之門	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
92	下剥峯式土器	1	西丸尾	鹿屋市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
93	平椀式土器片	1	二本松	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
94	磨製石鏃	8	二本松	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
95	磨製石鏃	1	日守	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
96	石皿	1	日守	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
97	下剥峯式土器	1	日守	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
98	吉田式土器	3	日守	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
99	塞ノ神式土器	1	前畑	鹿屋市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
100	丸ノミ形石斧	1	前畑	鹿屋市	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
101	砥石	1	前原	松元町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
102	磨製石剣	1	前原	松元町	縄文早期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
103	押型文土器	5	久保田	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
104	曾畑式土器	4	一湊松山	上屋久町	縄文前期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
105	曾畑式土器片	20	小浜貝塚	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
106	轟式土器	1	下剥峯	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
107	室川下層式土器片	7	下剥峯	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
108	曾畑式土器	1	神野牧	鹿屋市	縄文前期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
109	轟式土器	1	神野牧	鹿屋市	縄文前期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
110	轟式土器片	50	平庭B	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
111	曾畑式土器	1	本城	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
112	曾畑式土器片	55	本城	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
113	曾畑式土器	1	京塚	中種子町	縄文前期	中種子町教育委員会
114	市来式土器片	1	宇宿貝塚	笠利町	縄文後期	笠利町教育委員会
115	市来式土器写真	1	浦添貝塚	浦添市	縄文後期	新田重清氏
116	市来式土器片	1	大花里	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
117	磨製石斧	1	大花里	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
118	市来式台付皿形土器	1	草野貝塚	鹿児島市	縄文後期	鹿児島市教育委員会
119	市来式土器	1	草野貝塚	鹿児島市	縄文後期	鹿児島市教育委員会
120	舟形軽石製品	10	草野貝塚	鹿児島市	縄文後期	鹿児島市教育委員会
121	市来式土器片	15	寺之門	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会

No.	資 料 名	点数	遺跡名	所在地	時 代	所蔵・提供者
122	指宿式土器片	4	寺之門	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
123	石斧類	22	寺之門	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
124	軽石製品	2	寺之門	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
125	指宿式土器	1	成川	山川町	縄文後期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
126	市来式土器片	1	納曾	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
127	納曾式土器	1	納曾	西之表市	縄文後期	西之表市教育委員会
128	石皿	4	藤平小田	南種子町	縄文後期	南種子町教育委員会
129	市来式土器片	13	藤平小田	南種子町	縄文後期	南種子町教育委員会
130	磨石	1	藤平小田	南種子町	縄文後期	南種子町教育委員会
131	配石遺構写真	5	藤平小田	南種子町	縄文後期	南種子町教育委員会
132	配石遺構写真(空撮)	2	藤平小田	南種子町	縄文後期	南種子町教育委員会
133	市来式土器	7	干迫	加治木町	縄文後期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
134	納曾式土器	2	干迫	加治木町	縄文後期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
135	ヒスイ製品	1	現和菓	西之表市	縄文時代	下村照夫氏
136	ヒスイ製品	1	市ノ原	東市来町	縄文晩期	鹿児島県立埋蔵文化財センター
137	球状耳飾り	1	泉原	西之表市	縄文	西之表市教育委員会
138	球状耳飾り	1	上焼田	金峰町	縄文	鹿児島県立博物館
139	球状耳飾り	1	草垣島	枕崎市	縄文	枕崎市教育委員会
140	球状耳飾り	1	西之園	笠沙町	縄文	鹿児島県立博物館
141	丸木舟出土状況写真	1	鳥浜貝塚	福井県	縄文前期	福井県立若狭歴史民俗資料館
142	丸木舟出土状況写真	2	浦入	京都府	縄文前期	京都府埋蔵文化財調査研究センター
143	丸木舟出土状況写真	1	伊木力	長崎県	縄文前期	同志社大学
144	丸木舟出土状況写真	2	中里	東京都	縄文中期	東京都北区教育委員会
145	丸木舟出土状況写真	1	栗山川流域	千葉県	縄文中期	香取郡市文化財センター
146	丸木舟出土状況写真	1	長命寺湖底	滋賀県	縄文後期	滋賀県教育委員会
147	丸木舟出土状況写真	2	桂見	鳥取県	縄文後期	鳥取県埋蔵文化財センター
148	丸木舟出土状況写真	1	長命寺湖底	滋賀県	縄文晩期	滋賀県教育委員会
149	丸木舟出土状況写真	1	元水茎	滋賀県	縄文晩期	滋賀県教育委員会
150	丸木舟出土状況写真	2	三田谷 I	島根県	縄文晩期	島根県埋蔵文化財調査センター
151	黒曜石標本	9				鹿児島県立埋蔵文化財センター
152	黒曜石剥片	2	奥ノ仁田	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
153	黒曜石剥片	1	奥嵐	西之表市	縄文早期	西之表市教育委員会
154	黒曜石剥片	1	小浜貝塚	西之表市	縄文前期	西之表市教育委員会
155	ヒスイ原石	6				新潟県糸魚川市立フォッサマグナミュージアム
156	石槍出土状況写真	3	園田	中種子町	縄文草創期	西之表市教育委員会撮影

展示協力者・機関一覧

市来町教育委員会

鹿児島県立博物館

鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島市教育委員会

笠利町教育委員会

加世田市教育委員会

鹿屋市教育委員会

京都府埋蔵文化財調査研究センター

高知県立埋蔵文化財センター

滋賀県教育委員会

静岡県沼津市文化財センター

千葉県香取郡市文化財センター

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

東京都北区教育委員会

同志社大学 文学部

鳥取県埋蔵文化財センター

長崎県多古町教育委員会

中種子町教育委員会

新潟県糸魚川市立フォッサマグナミュージアム

福井県立若狭歴史民俗資料館

枕崎市教育委員会

南種子町教育委員会

宮崎市教育委員会

宮崎県立埋蔵文化財センター

河口 貞徳

新田 重清

平成11年特別企画展

種子島 縄文時代の夜明け

— 海をこえての交流 —

発行日 1999年11月26日

編集・発行 種子島開発総合センター
〒891-3101
鹿児島県西之表市西之表7585番地
TEL09972-3-3215

印刷 (有) 種子島新生社印刷

